

文化の風が吹くまち ちくしの

# 文化薫道

一其の二十一

岡田の阿弥陀三尊板碑

岡田中央公園の東側に、岡田の産土(うぶすな)を祭る老松神社があります。この本殿の右奥に石碑や仏像とともに市指定有形文化財の「阿弥陀三尊板碑」が安置されています。

阿弥陀三尊とは、阿弥陀如来を中尊とし、その左右に脇侍として観音菩薩と勢至菩薩



岡田の阿弥陀三尊板碑(右は拓本を取ったもの)

問い合わせ先／文化情報発信課(歴史博物館内)

☎(922)8419

を安置するものです。この板碑は、この形を梵字(ぼんじ)で表しています。板碑の中央上部に阿弥陀如来を表す **𑖀**(キリク)、右下に観音菩薩を表す **𑖀**(サ)、左下に勢至菩薩を現す **𑖀**(サク)という梵字が彫られています。 **𑖀**(サ)と **𑖀**(サク)の間には、「康永二年八月」「廿五日」と彫られ、建立された年代を知ることができます。年については二を並列させて四を表しています。

康永4年は西暦1345年で、朝廷が二つに別れ、中央・地方の豪族も相重なつて国中が騒乱の中にあつた南北朝時代(1336～1392年)に当たります。

県内でも1336年の福岡市での「多々良浜の戦い」や1353年の筑紫野市「針摺原の戦い」、また1359年の小郡市「大保原の戦い」など大きな戦いが続き、当時の人々は苦痛にあえいでいたことでしょう。

8月25日は、当時の暦では、秋の彼岸の頃です。この時代は逆修供養といって、生前に自らの仏事を執り行うことにより、大きな功德があると信じられていました。ここに暮らした人々は、打ち続く戦いのなか、阿弥陀三尊の加護により、現世や来世の安楽を願って建立したのかもしれない。老松神社境内の木々に囲まれていると、そのような思いが浮かんでいきます。

